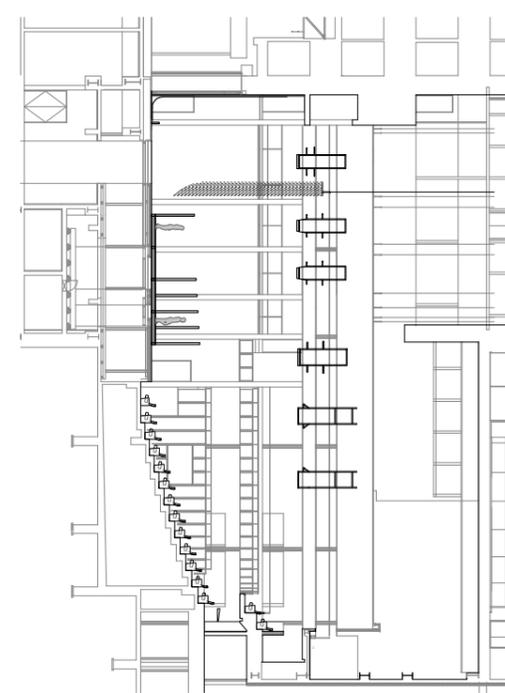
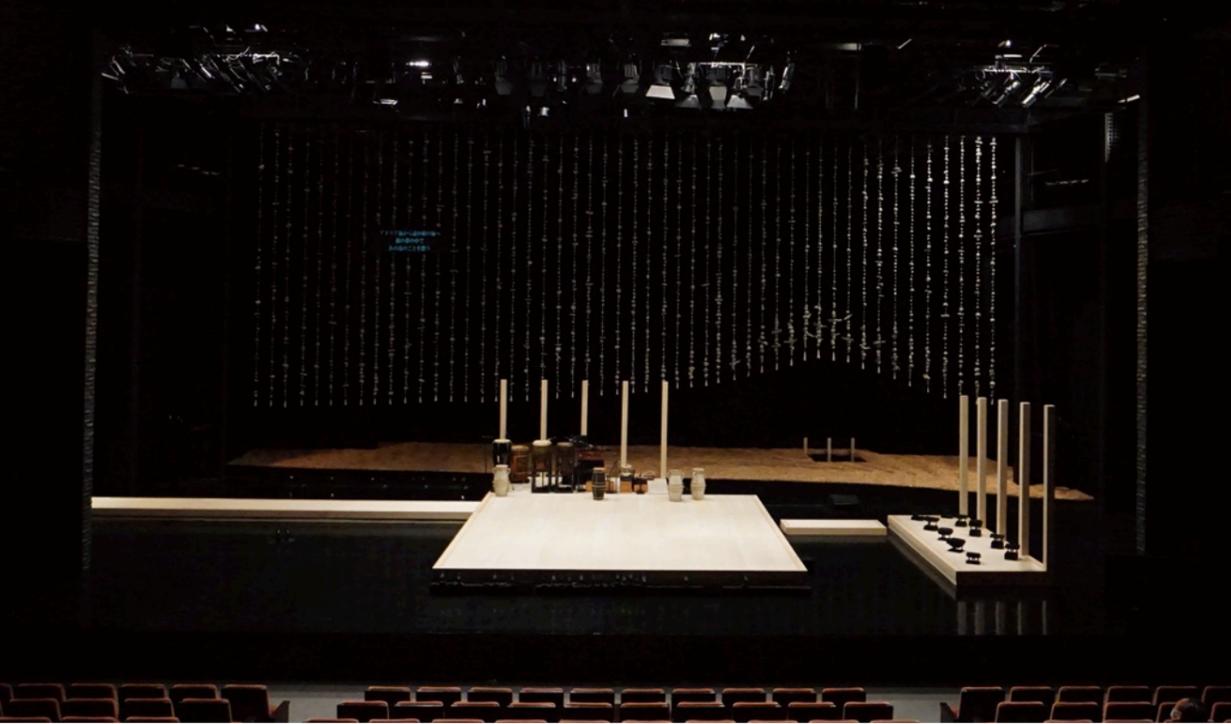
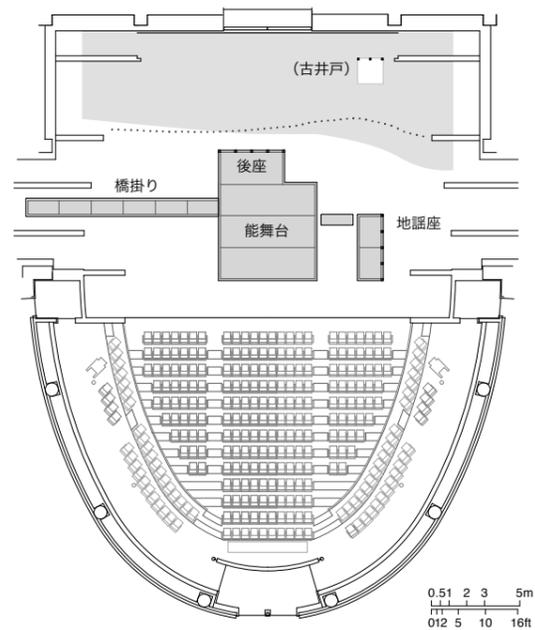


「ミヤギ能 オセロー — 夢幻の愛 —」 特設能舞台



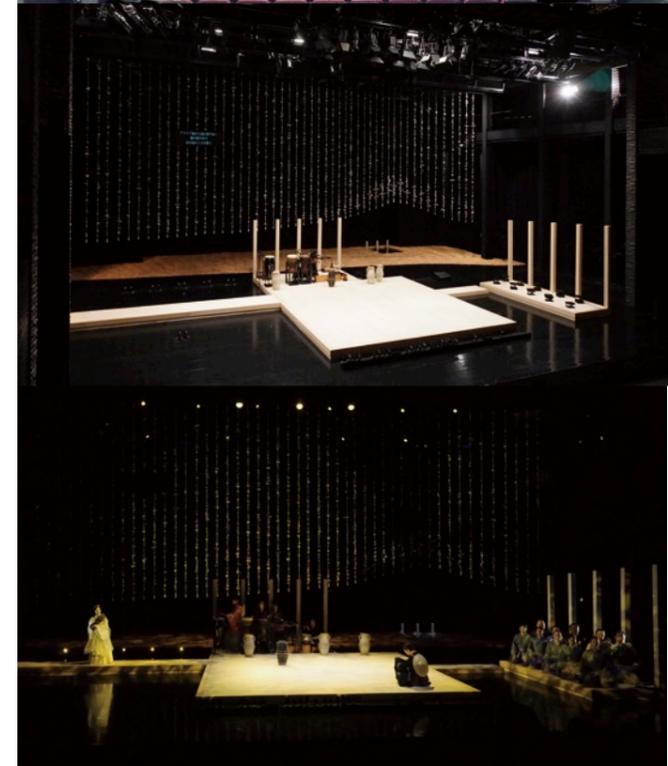
断面図 S, 1:400



平面図 S, 1:400



舞台設営後の計測結果



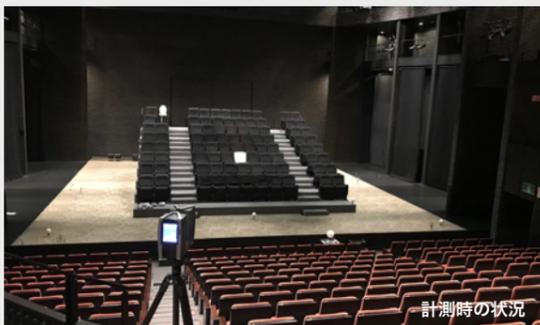
東京国立博物館の仮設能舞台での「夢幻能オセロー」公演から13年後、今回は静岡舞台芸術センター (SPAC) の公演のために空間構成に取り組んだ。前回は寛永寺ゆかりの日本庭園の池の端に、その場所性に応じた空間構成の能舞台を仮設したが、今回は静岡芸術劇場の完結した演劇空間に、原設計を継承した新しい設えの空間構成が企てられた。シェイクスピアのオセローを夢幻能形式に書き換えた謡曲台本による舞台のために、三間四方の能舞台が地謡座、後座、橋掛りとともに設えられた。

その基本的構成は継承しながら、失われた日本庭園周辺の環境の文脈を抽象化して、能舞台の背景として転写するがごとく舞台空間が構成されている。その設計プロセスでは、3Dスキャナーにより計測された静岡芸術劇場の点群データを活用して、原設計時の3Dモデルと融合してスタディするワークフローを開発した。東京と静岡の遠隔地間でも、ビジュアライズされた成果物によりチーム内コミュニケーションを取ることで、効果的に設計や検討を進めることが可能となった。

「ミヤギ能 オセロー — 夢幻の愛 —」	
日時:	2018年2月11日(日)~3月11日(日)
会場:	静岡芸術劇場
主催・製作:	SPAC 静岡県舞台芸術センター
原作:	シェイクスピア (小田島雄志訳による)
演出:	宮城聡
謡曲台本:	平川祐弘 ※「祐」の字は「示」に「右」
空間構成:	田中友章
協力:	明治大学田中友章研究室

1 劇場空間の3D計測

3Dスキャナーを用いて、舞台装置や客席を含む複雑な劇場空間を全てデータ計測し、あるがままの状態を3D点群データとして取得・再現。(現地計測とデータ結合に必要な時間は、約1日)



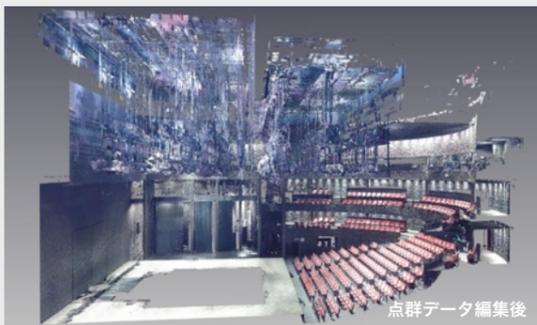
計測時の状況



点群データ結合後

2 点群データの編集 + 3Dモデルによる検討

計測時に公演中の舞台装置などの不要な点群を消去して、まっさらな劇場空間をデータ上に再現。2005年に上演した舞台の3Dモデルを挿入し、舞台設備や客席との関係から、舞台の位置・レイアウトや



点群データ編集後

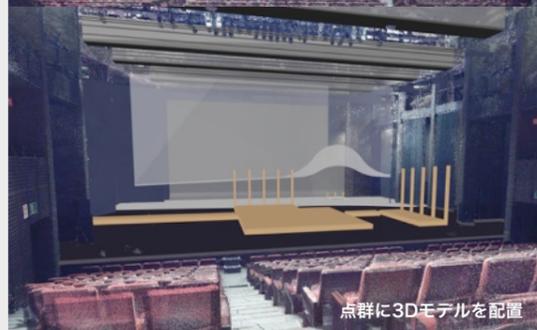


点群を背景とした3Dモデルによる検討

変更の方針を検討。新たに追加するスクリーン(つるし雛)の形状などの検討案を点群データ上の舞台空間に反映させ、舞台関係者とのイメージの共有に活用。その成果物をもとに、PVに使用する動画を作成。



字幕位置や構成の検討



点群に3Dモデルを配置

3 劇場内での詳細確認と調整

設計に基づく舞台装置を仮設営した後に、舞台稽古の過程で生じた要請にあわせて、現場で素材や詳細を原寸で確認した上で、舞台構成や美術の修正・調整を行い、最終的な設営を行った。



字幕投影とスクリーン(つるし雛)の検証



スクリーン(つるし雛)詳細

4 舞台設営後3D計測

舞台設営やりハーサル後に公演時の舞台の状態を、再び3Dスキャナーにより計測した。公演期間中に3Dデータを取得することで、今回の公演時の演劇空間を記録した。



再計測時の状況



舞台設営後の点群データ結合後